

百

100(百、ひゃく、もも)は自然数、また整数において、99の次で101の前の数である。

漢字の百(ひゃく、もも)は、単に100を意味する以外に、非常に多いことも表す。また、日本語の訓読みでは、百倍を意味する語尾を「お」(歴史的仮名遣では「ほ」と読む(例:五百(いお)、八百(やお))。

また、日本語の大和言葉では、数としての100を「もも」といい、単位としての100を「お」(歴史的仮名遣では「ほ」という(例:五百(いお) = 5×100 、八百(やお) = 8×100)。

英語ではhundred(ハンドレッド)およびone hundred(ワン・ハンドレッド)と表記され、序数詞では100th、hundredthおよびone hundredthとなる。ラテン語ではcentum(セントゥム)。

私の祖父の名前は、百千代(ももちよ)という。よくよく考えると、百も千も代が続くという、やんごとなき名前である。誠に恐れ多い。私が、まだ、1歳3ヶ月の時に亡くなったというが、その遺伝子を受け継いでいるので、百も千も続く磐城高校のために力を尽くそうと思う。

関連

小倉百人一首は、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて活動した公家・藤原定家が選んだ秀歌撰である。定家は、飛鳥時代の天智天皇から鎌倉時代の順徳院まで、100人の歌人の優れた和歌を一首ずつ選び、年代順に色紙にしたためた。小倉百人一首が成立した年代は確定されていないが、13世紀の前半と推定される。江戸時代に入り、木版画の技術が普及すると、絵入りの歌がるたの形態で広く庶民に広まり、人々が楽しめる遊戯としても普及した。

100首目の歌 作者 順徳院

百敷(ももしき)や古(ふる)き軒端(のきば)のしのぶにも
猶(なほ)あまりある昔(むかし)なりけり

宮中の古びた軒から下がっている忍ぶ草を見ている、しのんでもしのびつくせないほど思い慕われてくるのは、古きよき時代のことだよ。